

NEWS RELEASE

平成 22 年 5 月 21 日

市光工業株式会社

ICK1006

市光工業株式会社

イ チ コ ウ ミ ツ バ インク 米国の生産子会社 Ichikoh Mitsuba, Inc. を解散

大手自動車部品メーカーの市光工業株式会社（本社：品川区東五反田、代表取締役社長：河島 一夫、以下 市光工業）は、株式会社ミツバ（本社：群馬県桐生市広沢町、代表取締役社長：阿久戸 庸夫、以下 ミツバ）と、両社の合弁会社である米国の Ichikoh Mitsuba, Inc.（工場所在地：米国ケンタッキー州シェルビービル、営業・設計開発事務所所在地：米国ミシガン州ノヴァイ、取締役執行社長：E. グレンダ、以下 IMIC）を解散することで合意し、本日開催の両社の取締役会において、同社の解散を決定しました。

IMIC は、1987 年 4 月設立の市光工業の完全子会社 Ichikoh Manufacturing, Inc. を解散し、2006 年 12 月に、市光工業とミツバ両社が合弁で新たに設立した、市光工業の連結子会社です。資本金は 1,200 万米ドルで、市光工業が 75%、ミツバが 25% 出資しています。IMIC の従業員数は 124 名（2010 年 4 月現在）で、2008 年度の売上高は約 3,000 万米ドルです。同社では、自動車メーカーの北米生産拠点向けに自動車用ミラーやモールランプ、成形・塗装樹脂部品等を製造、販売していました。しかし、北米における自動車販売の低迷等、市場環境の変化を受け、両社での協議の結果、今後の業績回復は望めないため、このたび同社を解散することとなりました。IMIC は、本年 10 月末までに清算を完了する予定です。

市光工業では、経済成長が著しく自動車産業においても大きな需要拡大が見込まれているアジア市場の獲得に向け、国内外の経営資源を戦略的に配分する構造改革を実施しています。市光工業は、北米における経営資源の見直しと合わせて、アジアにおける事業のグローバル展開をさらに加速させていきます。

(参考)

<市光工業とは>

市光工業株式会社は、1903年創業以来、自動車用ランプとミラーの純正部品専門メーカーとして、トヨタや日産をはじめとする国内すべての自動車メーカー及び、海外主要自動車メーカーに製品を納入してきました。その歴史は長く、1932年には初代ダットサン（日産）へランプを装着し、日本初のプロジェクターヘッドランプや世界初の電動格納ミラー、水銀フリーHIDヘッドランプや次世代の光源として注目されているLEDヘッドランプなど独自の製品開発を主体的に行ってきました。これらの製品開発により、今日では国内において、自動車用ランプで21%、ミラーで26%といった大きなシェアを誇っています（2008年実績）。

<ミツバとは>

株式会社ミツバは、1946年、群馬県桐生市に株式会社三ツ葉電機製作所として創立された、大手自動車部品メーカーです。自動車、二輪、応用機器におけるモータを中心とした製品の製造、販売を手がけています。資本金98億8,500万円、従業員数15,875名（連結）（2009年3月現在）で、2008年度の連結売上高は約2,099億7,300万円です。

<本件に関するお問い合わせ先>

一般の方からの問い合わせ先

市光工業株式会社
広報担当 金子
TEL：03-3443-7211

報道関係からの問い合わせ先

市光工業株式会社
広報担当 金子
TEL：03-3443-7211

(株)VAインターナショナル
田中／亀有
TEL：03-3499-0016
FAX：03-3499-0017